



## 私達の地域医療 再生の取り組み

桧山医師会 理事  
南檜山医療・介護連携推進会議 会長  
道南勤医協江差診療所 所長  
**大城 忠**

南檜山は厚沢部、江差、奥尻、乙部、上ノ国5町から成る人口2万7千人余りの地域。道立江差病院を中心に各町の国保病院診療所が住民の生活を守っている。北海道では人口当たりの医師数が3番目に少ない二次医療圏だ。道立江差病院は2004年度18人いた常勤医が2012年度までに12人に減り、若い専門医たちの犠牲的とも言える頑張りでも医療は維持されている。

私は、1986年開設時4年間世話になった現在の診療所に2007年に再赴任した。

当診療所の医師体制もきびしく、2009年に17床の入院機能を閉鎖した。減る医師数、お産ができない地域、年度によっては外科の手術もできなくなった地域医療に住民たちから閉塞感と不安の声が聞こえてきた。

頼りの行政はというと、町財政は厳しく各町の病院を支えるだけで精一杯、地域医療全体に次の一手が打ちづらい。

皆さんの話を聞くうち、当診療所の医師不在時に患者さん達が情報を持たずに他の医療機関を受診、医師たちの疲弊の原因になっていることを知った。困難は連鎖し、医療崩壊は関係者や地域の絆の崩壊につながることを実感した。

話し合いの中から、キーワードは過去にも幾度も聞いた「連携」…医療人だけではない、住民、行政、介護もあらゆる関係者の「連携の具体化」であると納得した。

### 小さな診療所に何ができるか？

当然のことだが、病院の医師たちへの負担増に気を使った。せめて早めの連絡、せめて不足のない情報を心がけよう。日常診療では在宅医療、不十分でも終末期医療を重視しようと話し合った。連携を強化し、主治医機能を継続するため、診療所の患者さんが入院したら訪問に行くようになった。ベッドサイドに訪問し、「元気になったらまた往診に行くぞ」と声をかけるうち、病院側からも「診療所の先生が来てくれて患者さんが喜んで」と評価してもらうようになった。

徐々に在宅での看取りを経験するようになった。在宅支援診療所が皆無のこの地域、留守の多い私の診療所での看取りに道立病院、近隣の先生たちがバックアップしてくれた。看取り難民の増加が予想されるこの地域で連携による在宅・施設の終末期医

療を模索している。

### 地域の関係者たちと一緒に活動

地域の人たちが「草の根の会」の活動を開始してくれた。2008年、「道立江差病院を守ろう」とシンポジウムを開いた。道立江差病院院長先生の熱意が住民に届いた。医療情報誌「ずなこま（仲間）」を発行し、地域情報の啓発に努めてきた。住民の意識改革がカギというのはすでに多くの地域の教訓だ。しかし、運転資金ゼロ、手弁当、江差町以外に広がらない活動に一定の限界が見えたとき、保健所が提案してくれた。1年前から始めた地域連携勉強会を発展させ、3年間限定だが北海道の援助を受けることになった。地域医療情報誌が「リンクルみなみひやま」に変わり、南檜山5町の住民に届くようになった。「互いに協力し、地域の医療・介護を守りたい」と集う連携推進会議の皆さんに尊敬の念を感じながら毎月の会議が楽しみだ。

### 地域医療再生計画の推進が始まった

各医療機関の旺盛な議論を経て、南檜山の全医療機関がITでつながった。診療所の医師にとって大きな前進。最先端の画像、検査結果がリアルタイムに届き、治療内容が分かるようになった。遅れていた医学知識を取り戻すこともできる。

### 時には青年医師が地域におとずれるようになった

地域医療研修の青年医師、医学生さん達が2週間とか数日間研修に来てくれる。ありのままの地域を見てもらう。医療・介護の関係者たちが喜んで青年たちを迎えてくれる。外来、入院、胃カメラ、趣味の写真までこなす診療所のスーパードクターにも会ってもらう。「どうだ、地域自慢の先生だ」。言葉を発することができず、寝たきりで経管栄養の患者さんが並ぶ療養病棟の厳しい現実を見てもらおう。道立病院に入院中の患者さんにも会ってもらおう。

青年たちは地域を見、祭りにとけ込み、地域医療の現実を知り、悩む。私たちを元気づけ、教訓を残してくれる。

### 地域は変わったか？

医療再生の課題はひとつだけではない。短い文章に収まらない私たちの活動は実に頼りない。活動も途切れがちになるし、息切れしながら小さな工夫を積み重ねている。結果がどうだと問われたとき、まだ確たる実績があるわけではない。しかし、道立病院の先生が「時間外受診が減った。クレームが減った。気を使ってもらっていることが分かる」と言ってくれる。診療所の患者さんの「安心して暮らしている」との声も小さな嬉しい結果だ。

最後に

地域の人々がささやかな収入で生活し、協力していく中、新しい政権に強い危機感がある。対外的に強い国を作っても国内で強いものに富が流れていく競争原理。地域の皆さんの努力は容易に吹っ飛んでいく。今後の困難を覚悟する必要がある。

以上、最後にひとつだけ政治への不満を訴えて終わろうと思った。数日間閉めの言葉を考えたが、愚痴で終わるのは口惜しくなった。若い研修医のパネルで閉めよう。提示させてもらったのは最近来てくれた勤医協中央病院研修医菅藤佳奈子さん作成。他の研修医、学生さんの報告の総決算のようにまとめてくれた。「地域の皆さんが連携し、地域を守ろうと努力している様子が見える」と表現してくれた。提示した3枚の大きなパネル、捨てたものじゃない。地域を思う皆さんと一緒に頑張ってみよう。

